

## 4. おわりに

本資料は、平成 24 年に改訂された河川砂防技術基準（調査編）において位置づけられた「流砂量年表」として、全国の直轄砂防事務所で近年取得された流砂水文観測のデータの一部を取りまとめたものである。ここにまとめたように、非常に多くのデータが全国の担当者の努力により蓄積されつつある。これらは、砂防計画や総合土砂管理計画の検討等に資する大変貴重なデータであると考えられる。一方、国総研資料第 887 号「近年の山地河川における流砂水文観測」でも示されている様に現状の観測技術には課題が残されている。そこで、観測技術の課題に留意した上でデータを活用していくことが重要であると考えられる。